

埼玉会だより

第30号
日退協 埼玉会

新しい目標に向かって、出発しよう！

埼玉会代表幹事 石井 憲



秋も深まり、ストーブの恋しい季節となりましたが、皆さまにはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

新型コロナウイルス感染者が急激に減少し、緊急事態宣言も10月1日より解除されました。徐々に通常の生活に戻れるという期待が高まっており、このまま収束を願うばかりです。

埼玉会としても、この1年半は大変苦しい状況で、残念ながら総会をはじめ、5つのイベントを中止せざるを得ない仕儀に至りました。この間、参加をご希望されていた皆さまには大変なご迷惑をお掛けするところとなりました。

さて、埼玉会から2つのお願いがあります。

1つ目はイベントへの積極的な参加です。

万全な感染防止対策を徹底しますので安心して、今後予定しているイベントに多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。

日退協の本年度の重要目標として、SDGs活動を掲げているのはご承知のことと思います(詳細はマチュリティ112・113号に掲載)。公益社団法人としての当協会の活動を一般に広く理解してもらうため「協働活動支援事業」を立ち上げたものであり、今年度は次の2つの事業に取り組めます。

- ①「親子で取り組む100年前の海を取り戻せ！大作戦」
- ②「自然に優しい手作りおもちゃプロジェクト」

それぞれの2団体は既に精力的な活動を始めており、今後日退協の社会貢献事業の柱として成果が上がるものと期待しております。

2つ目はこの「協働活動支援事業」に積極的に参画すること、また、将来的には身近なところで関われるSDGsの協働事業を埼玉会として提案していければと思っております。皆さまのSDGsに対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

なお、現在活動中の2つの事業の経過につきましては今後「埼玉会だより」にてご報告して参ります。

埼玉会イベントのご案内

イベント幹事 菊池正美

今後のイベント予定は、イベントごとに詳細なご案内を致します。「参加」ご希望の方は次ページ巻末の事務局まで ①e-mail または ②Fax でお申込みください。

1. 2021.11.04(木) 秩父シラス「25番久昌寺、28番橋立堂」(59回)
 <<予定通り実行しました>>
2. 2021.12.02(木) 新座「平林寺の紅葉」鑑賞(60回)
3. 2022.01.06(木) 「初詣・新年会」鷲宮「鷲宮神社」(61回)
4. 2022.02.16(水) 北本「富士重工業埼玉製作所」見学(62回)

渋沢栄一の生地「血洗島」の由来

菊池正美 (足立区西新井)



私の母の実家は深谷市大塚島で、子供のころはよく遊びに行きました。そのころ、北東に見える部落に「あの島は何というの」といって聞いたところ「ちゃーらしまだに」と言われ、そのとおりに記憶しておりました。後年、歴史の授業で渋沢栄一を学び、その実家が「血洗島」(チアライジマ)という恐ろしい村名に驚きました。

一説に、八幡太郎(源)義家が利根川岸の戦いで片腕を切り落とされ、この村でその血を洗ったとされる言い伝えがあります。

しかしながら、このあたり一帯は利根川の洪水によりできた汜濫原のため地洗(地を洗うように流された)とか、地荒(地が荒れる)であったのが、いつの間にか「地」が「血」となり、血洗島となったという説がもっともらしい様に思われます。

また、この地には「瀬」や「島」といった地名も多く「中瀬・横瀬」「血洗島・西島・内ヶ島・大塚島・矢島」などがあります。

70年の我が人生を振り返る

(マイホーム購入)

関谷一郎 (さいたま市)

人生。大きな波乱もなく古希を迎えました。

新型コロナ流行に遭遇するとは思ってもいみませんでした。戦争に翻弄された世代に比べると、我が人生の思い出のなんと陳腐なことか。友人が「自分史」をまとめているようなので、それに倣い、残してもしようもないのですが、記憶をたどってみます。

さいたま市に居を構えて30年になります。きっかけは与野の社宅に引っ越したことです。6年程住んだところで、青森に転勤となり、家族を社宅に残したまま4月に単身赴任です。

丁度、長女が東京の私立中学に入学したところで、二重社宅になってしまったのですが、人事部は二重社宅を認めてくれず、7月から相場家賃参考に20万円を徴収されることになりました。マイホーム購入はまだ先のことと思っていたのですが、連休の5/3に与野に戻り、社宅周辺のマンションを探し廻りました。戸建てがいいとかマンションがいいとか考える余裕はありません。3件目に見たのが現在住んでいるマンションです。会社の人事部に背中を押され、半日で高額な買い物を即断即決しました。新築で9月入居なので、それまでは社宅家賃20万円は徴収されましたが、お気に入りのマイホーム購入のきっかけを作ってくれた人事部に感謝です。

花言葉

遅咲きの向日葵

堰 (ペンネーム)



向日葵は夏の代表的な花で、ゴッホの「南仏のひまわりは太陽」が有名ですが、埼玉の鴻巣市寺谷には、遅咲きのひまわり畑の花のオアシスがあります。

高知では二十五万本の遅咲き向日葵が咲くそうです。また四国四万十を舞台にした「遅咲きの向日葵」のドラマあるとか。今年のノーベル賞の真鍋淑郎教授の気候変動説では、季節の変化もありで、秋に楽しむは不思議な気持ちになります。

よそめには 盛んなること 太陽を

しのぐと知らぬ 向日葵の花 <与謝野晶子>

花言葉は、“あなただけを見つめる”です。

ひまわりの花が太陽に向かって咲く様子に由来しているとされています。

会員の写真作品紹介コーナー

No.13「名残の秋」

田中英司 (さいたま市)

昨年の秋、コロナで出かけられず、近くの公園で暇つぶしに散歩していた時に写した1枚です。ほとんど葉の落ちた木に、綺麗に色付いた葉が輝いて見えました。



「深谷弁」=「武州弁」

菊池正美 (足立区西新井)

NHK大河ドラマ「晴天を衝け」で使われていた深谷弁は、子どものころ深谷市大塚島でいとこ達と遊んでいる時に、良く聞いた(使っていた)言葉で、今でも無意識のうちに出てくることがあります。

- ◆「～だんべ」=「～だろ」、◆「～だに」=「～なんだよ」、
- ◆「ちっとんべ」=「ほんの少し」、◆「おっべす」=「押す」、
- ◆「かんます」=「かき混ぜる」、◆「～そうなん」=「～そうなの」、
- ◆「は一、帰(ケー)るん」=「もう、帰るの」、◆「たんと」=「たくさん」、
- ◆「なびる」=「塗る」

◆「うっちゃる」=「捨てる」、◆「ぬくとい」=「暖かい」

今回「深谷弁」を調べなおして、懐かしく心温まるような気持ちになりました。

転勤あれこれ

白石 崇 (ふじみ野市)

私は、保険会社に勤務していた関係で転勤が多く勤務地は下記のとおりです。新入社員から順に水戸、新潟、北九州、東京、静岡、岡山、名古屋です。勤務地それぞれ方言がありました。印象深いものを少し列記します。

1. 茨城:ごじゃっぺ…“でたらめな奴”が直訳で、感嘆、強調の時に使用する。
使用例…あいつはごじゃっぺだからどうしようもね～ナ!
2. 新潟:ぴんからトリオの「女の操」の替え歌で方言を披露します。

おめさんのために、守ってきたわね、おなごの操

いまさらだっかにやらなくてさ

おめさんの決して邪魔などしねすけに

そばに 置いてくんなせ～や

別れるよりは死にてわね おなごだすけに

※他に「そういんだ」=そのとおり などがある。

3. 北九州:なんかきさ～ん こら しばいたるか!

…(何か貴様、殴るぞ!)

※代理店さんから、冗談半分、本気半分でよく言われたものです。

地元の地名由来を調べたら

田中英司 (さいたま市)

コロナ過でなかなか出歩けず、気晴らしに前から気になっていた地元の地名由来を調べてみました。

由来は、素戔鳴尊の御子神(子供)の八柱を御祭神としている為、八王子神社と呼ばれており、神社名が地名の由来になっているようです。

八祭神の名前は、左表「御祭神」の通りです。

御祭神	
・田心姫命	・湍津姫命
・正勝吾勝勝速日天之忍穂耳命	・市杵嶋姫命
・天津彦根命	・熊野椋樟日命
・活津彦根命	・天之穂日命

神社の創建時代は不明ながら、京都の清涼寺の融通念仏縁起には全国的に疫病が流行った時、与野郷の名主が、念仏を修し疫病を免れたと記されているそうです。念仏の宗祖忍上人は比叡山の堂僧であったため、比叡山で守護神とされていた八王子権現を当地にお祀りしたと推測されます。江戸時代は八王子村の鎮守、明治になり村社となりました。

私は最近までこの神社は、浅間神社だとばかり思っていました。理由は、神社前のバス停が浅間神社だからです。

しかしよく見ると、神社の後ろに塚(古墳らしい)の上に祠があり、そこに浅間神社が祀られています。祭神は木花之咲耶姫で、天照大神の御孫神です。御社は小さくても神格は上と言う事でしょうか。まるで、木花之咲耶姫を守るように八柱の神様が鎮座して居る様に見えます。

自分の住んでいる町の地名の由来を調べてみるのも面白いと思います。意外な発見があるかもしれません。

いきいきシニアライフ

(発行者) 公益社団法人 日本産業退職者協会・埼玉会

代表幹事 石井 憲

事務局 畠山忠昭

事務局 〒332-0031 川口市青木 1-22-17-902

TEL&FAX 048-259-5917

e-mail jarp_saitama@yahoo.co.jp

埼玉俳壇

過ぎてふと藪柑子(あぶらご)の赤隔つ母

地畑朝子